

# 現3年生のデータから見える、 今後の進路・学習指導のポイント

今号は、2025年度「スタディーサポート・3年生第1回」における進路意識・学習状況と25年度進研模試「大学入学共通テスト模試・6月」における志望動向の2つのデータを基に、生徒の希望進路の実現に向けた今後の進路指導と学習指導のポイントについて考える。

## 現3年生の志望動向と学習の特徴

### 総合型・学校推薦型選抜を希望する生徒が増加

まず、2025年度「スタディーサポート・3年生第1回」の分析結果を基に、現3年生の進路意識と学習状況について整理する。

「希望する入試方式」を尋ねた設問では、24年度と比較して一般選抜を希望する割合が減少し、総合型・学校推薦型選抜を希望する割合が増加。近年、総合型・学校推薦型選抜の募集人員は拡大傾向で、同方式での受験を希望する生徒が増えている（図1）。

25年度の傾向として、学力試験型の年

内入試の新規導入が見られることにも触れておきたい。25年6月に文部科学省が示した「令和8年度大学入学者選抜実施要項」では、総合型・学校推薦型選抜において、2月1日より前に教科・科目に係る個別テストを実施できる旨が明文化された（\*1）。24年度に東洋大学で新たに実施された年内入試「学校推薦型選抜基礎学力テスト型入試」（25年度は総合型選抜に変更）と同様の形式の入試が広がる可能性が高い。これまで以上に年内入試の可能性を含めた受験戦略を考えることが求められそう。

### 例年に比べて受験勉強のスタートが遅い生徒が多い

「受験勉強の進み具合」について尋ねた設問では近年、「受験勉強を始めるのはまだ先でよい」と回答する生徒が増加している（図2）。しかし、それ以上に「スタートが遅れてしまい、かなり焦っている」と回答する生徒が増加しており、ここ6年間で最も割合が高かった。

総合型・学校推薦型選抜が拡大し、受験の時期が早まる傾向にあることに逆行して、受験勉強のスタートが遅い生徒が例年よりも多い点には注意したい。

### 国公立大学・私立大学ともにやや強気の志望動向

次に、25年度進研模試「大学入学共通

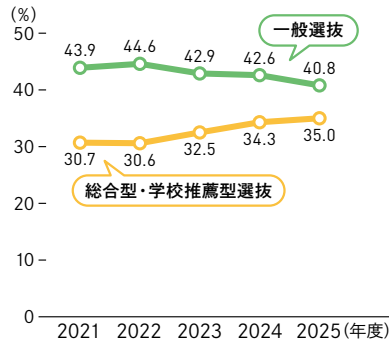
テスト模試・6月」における志望動向を見ていく。国公立大学全体の志望者数は対前年指数99で、日程別に見ると、前期日程の志望者数は対前年指数100と前年並みであったのに対し、縮小・廃止が続く後期日程の志望者数は対前年指数96と減少した。

大学群別では、難関国立10大学の志望者数は対前年指数101、ブロック大学は99、その他の国公立大学は98と、入試難易度が高い大学群ほど高かった（図3）。教育課程の変更に伴う入試変更が一段落し、受験生の強気の志望傾向がやや強まっていることが見て取れる。

私立大学全体の志望者数は対前年指数97と減少したのに対し、早慶上理、MARCH、関関同立の難関13私立大学の志望者数は対前年指数101と前年並みとなった（図4）。入試方式別に見ると、

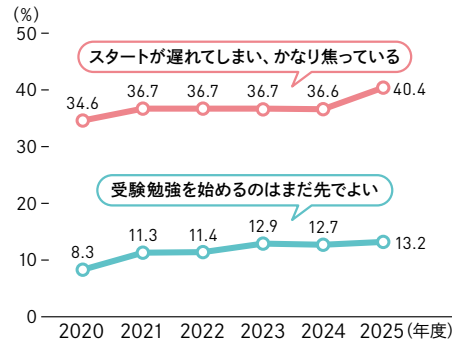
\* 1 ただし、「小論文・面接・実技試験等」または「志望者本人が記載する資料や高等学校に記載を求める資料等」と組み合わせて実施することが求められる。

図1 希望する入試方式



※各年度の「スタディーサポート・3年生第1回」の全国集計値を基に作成。

図2 受験勉強の進み具合



※各年度の「スタディーサポート・3年生第1回」の全国集計値を基に作成。

私立大学全体では共通テスト方式の志望者数の減少が目立つが、難関13私立大学では入試方式による志望者数の対前年指数の差はほぼ見られなかった。難関国立大学全体の志望者数が増加していることから、共通テスト方式での難関私立大学の併願を検討している受験生が

図3 国公立大学・大学群別の志望動向

	志望者数		指数
	25年度	24年度	
難関国立10大学	147,971	146,671	101
ブロック大学	180,412	182,307	99
その他の国公立大学	503,986	511,691	98

※2025年度進研模試「大学入学共通テスト模試・6月」より  
 ※難関国立10大学：北海道大学、東北大学、東京科学大学、東京大学、一橋大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、九州大学。  
 ※ブロック大学：筑波大学、千葉大学、横浜国立大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、広島大学、熊本大学、東京都立大学、大阪公立大学。

学部系統別の志望動向を見ると(図5)、国公立大学では、語学、経済・経営・商学系統などで志望者数が増加した。一方で、人文科学、生活科学、薬学系統などで志望者数の減少が目立った。私立大学では、多くの学部系統で志望者数の対前年指数が100を下回った。中でも生活科学、薬学系統などでの志望

資格志向の弱まりが見られる

多いと考えられる。受験勉強のスタートが遅い生徒が多い中、志望は強気の傾向であることを踏まえた学習指導が求められると言える。

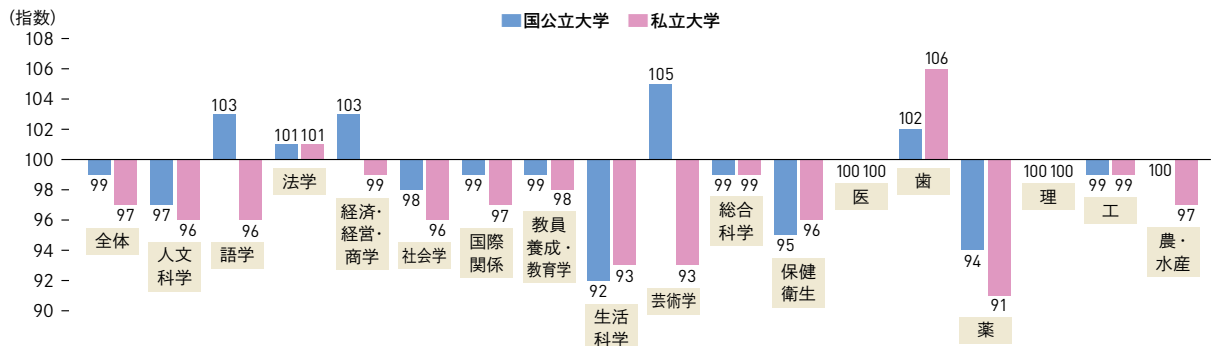
図4 私立大学・大学群別の志望動向

	一般方式			共通テスト方式			合計		
	志望者数		指数	志望者数		指数	志望者数		指数
	25年度	24年度		25年度	24年度		25年度	24年度	
私立大学全体	1,044,474	1,062,539	98	422,170	444,708	95	1,466,644	1,507,247	97
難関13私立大学	242,273	239,781	101	116,336	116,809	100	358,609	356,590	101
早慶上理	49,209	48,894	101	26,563	27,037	98	75,772	75,931	100
MARCH	104,072	103,387	101	53,346	53,293	100	157,418	156,680	100
関関同立	88,992	87,500	102	36,427	36,479	100	125,419	123,979	101

※2025年度進研模試「大学入学共通テスト模試・6月」より  
 ※早慶上理：早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学。  
 ※MARCH：明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学。  
 ※関関同立：関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学。

者数の減少が目立った。生活科学、保健衛生学、薬学系統などでの志望者数の減少は国公立大学と私立大学で共通しており、資格志向が弱まっていると考えられる。

図5 学部系統別の志望動向



※2025年度進研模試「大学入学共通テスト模試・6月」より。 ※数値は前年度を100とした時の指数。

# 受験勉強のスタートが遅れ、 焦っている生徒に対する指導

E判定でも合格する受験生は  
少なくないことを伝える

受験勉強のスタートが遅れたと焦る生徒は、模擬試験の合格可能性判定が芳しくないと弱気になり、志望校の変更を考え出すかもしれない。そのような生徒には、E判定だった受験生が合格するケースは少なくないことを伝えることで、前向きにさせたい。例えば、明治大学文学部の25年度入試では、9月時点で志望者の7割がE判定であり、合格者の4割はE判定だった(図6、7)。進研模試のE判定は合格率20%未満となるように設定しているが、私立大学は受験日が多く、E判定の受験者も多いため、合格者に占めるE判定の受験者の割合も高くなる傾向がある。それを生徒に伝えることで、判定が芳しくないから諦めるのではなく、合格可能性の高い併願校を押さえるなどして、積極的に第1志望校に挑戦できるような受験戦略を組み立てさせたい。

入試方式の特徴を踏まえ、  
年内入試への出願を見極める

総合型・学校推薦型選抜の受験を希望する生徒が増加する中、同方式に出願する見極めが一層重要になってきている。総合型・学校推薦型選抜には、教科学力を重視する場合もあれば、志望理由を重視する場合もある。教科学力を重視する場合は、秋の段階で志望理由が固まっていないう生徒でも、学力基準がクリアできれば、一般選抜と並行して対策を進めやすいため、出願を前向きに検討してよいだろう。そうした見極めに活用したいのが、第1回出願指導WEB研究会で提供した「入試方式別合否度数分布」や「教科学力で合否が決まる募集単位・決まらない募集単位」(図8)などのデータだ。試験内容の詳細や合格者の特徴は「受験レポート」などで確認できる。出願から受験対策まで、データを活用した指導を充実させ、生徒を支援していきたい。

図6 高3生9月模試時点の志望校判定(受験者全体)

◎2025 年度入試 明治大学文学部



図7 高3生9月模試時点の志望校判定(合格者のみ)

◎2025 年度入試 明治大学文学部

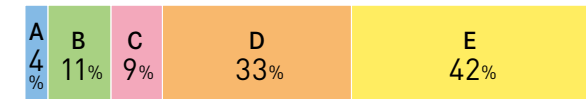


図6、図7 ※2025 年度入試結果調査及び2024 年度「第1回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試」の両方のデータがある生徒を集計。

図8 「2025 年度 教科学力で合否が決まる募集単位・決まらない募集単位」

ハイスクールオンラインで下記のデータを確認できます。  
詳しくは P.45 の告知をご覧ください。

区分	エリア	大学CD	大学名	学部	学科	入試方式	教科学力の合否 影響区分	合格者平均より 上の合格率	合格者平均未 満の合格率	合格率の差	合格者平均より 上の人数	合格者平均 未満の人数
国立	北海道	1010	小樽商大	商		総合型選抜	A	71	12	60	7	17
国立	北海道	1010	小樽商大	商		推薦型選抜	A	71	29	42	65	140
国立	北海道	1010	小樽商大	商夜		推薦型選抜	D	75	67	8	12	9
国立	北海道	1030	北教大旭川校	教育		推薦型選抜	B	62	42	21	53	36
国立	北海道	1035	北教大岩見沢校	教育		総合型選抜	B	55	26	29	11	31
国立	北海道	1040	北教大釧路校	教育		推薦型選抜	D	81	86	-6	36	22
国立	北海道	1045	北教大札幌校	教育		推薦型選抜	D	29	33	-4	65	21
国立	北海道	1050	北教大函館校	教育		推薦型選抜	C	71	51	19	41	37

※進研模試偏差値は2024 年度「進研模試3 年生7 月記述」「第2 回ベネッセ・駿台記述模試」に基づいて算出。

※学習到達ゾーンは、進路マップ得点と進研模試偏差値との相関に基づいて算出。

※集計できた合格者平均より上の人数及び下の人数がともに5 人以上の方式を掲載対象としている。

※集計に用いる教科は以下の通り。

〈国公立大学〉3 教科〈私立大学・短期大学〉文理別2 教科

文系：国英、理系：数英を使用。「文系」「理系」は、弊社独自の文理区分に基づいて決定。各学部の学科・専攻(募集単位)で文理が混在している場合は、割合の多い方にそえた上で全募集単位を集計。

合格者の平均に該当する学力到達ゾーン (GTZ) より上の GTZ の合格率と下の合格率の差によって4 段階で判別。

A：強く影響する (30 ポイント以上、一般選抜と同程度)

B：影響する (20 ～ 30 ポイント)

C：影響が小さい (10 ～ 20 ポイント)

D：ほぼ影響しない (10 ポイント未満、教科学力で合否の差がほぼついていない)

